

2021年度日本思想史研究会

丸山政治思想史学への批判からみる「知識人」「民衆」の連結性—『日本政治思想史研究』を中心に

目的

丸山政治思想史学への批判を議論することにより、「近代」「知識人」「民衆」の関係性を明らかにする。

運営方法

- ・ Zoomによるオンライン研究会。今年度は16回開催した
- ・ 春学期（5～8月）
ZOOMによるオンライン形式で開催した。丸山眞男の『日本政治思想史研究』の輪読報告を行った。報告者が資料を作成し、それに沿って輪読を行った。
- ・ 秋学期（10～1月）
ZOOMによるオンライン形式で開催した。丸山政治思想史学を各自の研究領域と絡めて報告した。日本思想史、政治思想史、哲学を専攻する他大学の大学院生にも参加してもらい、幅の広い議論を展開した。

主な研究内容

- ・ 王小梅「主体・秩序・共同体——吉本隆明と丸山眞男における伝統と近代」
- ・ 平石知久「丸山眞男における“美”の問題—合理性をめぐる一側面—」
- ・ 松川雅信「平泉澄の山崎闇斎研究と「日本精神」—昭和戦前期にとつての近世思想」
- ・ 渡勇輝「日露戦後における「神社」論の展開とその批判——柳田国男「塚と森の話」を中心に」
- ・ 相澤みのり「幕末の雄藩と平田国学 —薩摩・岩下佐次右衛門を例に—」
- ・ 中井悠貴「「八紘一宇」理念と「世界性」——對外思想戦と「偽書」、神代——」
- ・ GU Wenying「幕末期の儒者池田草庵と「陽明学的主体性」
- ・ 眞田航「西田幾多郎は近代を超克したか？——「文明論的転移」の攪乱に向けた試論」

総括と今後の課題

- ・ 丸山眞男の『日本政治思想史研究』において、近代的理念的主体の形成は、理性的・市民な側面ばかりが強調されている。丸山政治思想史への批判に関わる先行研究を考察・検討した結果、保守的なものとされてきた民衆思想、朱子学的合理主義思想を射程に入れるべきであり、とりわけその中に含まれる非合理的・情動的な側面と近代的主体の形成をもう一度見直す必要があり、そこに「知識人」「民衆」の連結性の営みがみえてくると考えられる。
- 「頂点的思想家」VS民衆思想の固定観念＝枠組みから自由になって、日本思想史の総体をみる必要がある。

